

第2回高校生トライアスロン選手権へ参加した選手及び引率者等（地域クラブコーチ・保護者・学校クラブ顧問）へのアンケート調査集計・分析結果について

高校生普及委員会委員 豊岡正康

【1】この調査アンケートは、選手自身や引率者等が日ごろ行っているトレーニング環境や競技団体への要望、悩みなどの一部をまとめたものです。

【2】アンケート実施日時（大会競技説明会、保護者セミナー実施時）

2019年8月24日(土)13:30~16:00

【3】調査対象・回答数

男子選手：1年15名 2年10名 3年9名 計34名回答/34名出場

女子選手：1年6名 2年4名 3年3名 計13名回答/14名出場

引率者：11名回答

男子：岡山1 東京6 愛知4 京都3 熊本1 福岡4 栃木1 鳥取2 静岡1 新潟3 宮城1  
佐賀1 山口1 北海道1 山形2 福島1 広島1

女子：山梨1 愛知3 長崎1 福岡1 栃木1 鳥取1 千葉1 東京2 新潟1 兵庫1

【4】調査方法・回答率

① 競技説明会に参加した選手に調査用紙を手渡し、競技説明会後に回収する。

② 保護者セミナーに参加した引率者等に調査用紙を手渡し、競技説明会後に回収する。

③ 回答率：100%

【5】アンケート結果

《選手》

(1) 学校での部活動

1年男子：水泳4 自転車1 陸上4 トライアスロン1 部活に所属していない・無回答5

1年女子：水泳3 自転車0 陸上2 トライアスロン0 部活に所属していない・無回答1

2年男子：水泳4 自転車0 陸上2 トライアスロン1 スキー1 部活に所属していない・無回答2

2年女子：水泳1 自転車0 陸上3 トライアスロン0 部活に所属していない・無回答0

3年男子：水泳1 自転車0 陸上4 トライアスロン3 部活に所属していない・無回答1

3年女子：水泳・陸上1 水泳1 総合運動1

部活に所属している38名 部活に所属していない・無回答9名

(2) 顧問の先生はトライアスロンをしていることを知っていますか。※部活動ありの場合

男子：YES(25) NO(1) 女子：YES(12) NO(0)

(3) 顧問の先生は今回の大会のことは知っていますか。※部活有の場合

男子：YES(21) NO(5) 女子：YES(10) NO(2)

(4) 所属している部活との両立はどうしていますか。※トライアスロン部以外に所属している選手

できている5 できていない2 部活後に練習2 トライアスロンの無い日に参加1

トライアスロン中心7 所属部活大会前は主に部活2 部活は練習だけ2 部活は所属だけ1

練習を部活に合わせる3 曜日で分けて1 トライアスロンは大会にだけ出場1

部活は週2回参加1 部活優先1 自由に部活に参加1 部活以外は個人練習1 時間をずらす1

(5) 普段の練習拠点場所はどこですか。※複数回答あり

男子：地元18 学校プール等1 特にない1 学校8 クラブ7 無回答2

女子：地元6 学校4 クラブ6 無回答1

(6) 今大会参加で学校からの補助金はありますか。

あり：1 なし：41 無回答：5

(7) 普段の練習で困っていることはないですか。

ない25 スイム・ランの練習があまりできない1 無回答7 指導してもらえない機会がない1

バイクの練習があまりできない2 何をしたらよいかわからない1 練習場所が遠い1

スイム練習ができない1 練習仲間が少ない3 環境1 プールの休みが多い1

暑すぎてランの練習ができない1 競泳とトライアスロンの両立1 低血圧1

(8) 来年も大会に出場したいですか。※1・2年生対象

男子：YES(24) NO(1)

女子：YES(10) NO(0)

(9) 参加を決めた理由は何ですか。

出たかったから1 力試しをしたかったから9 レースに出たかったから1

今の練習で何が足りないか知るため1 家が近いから1 高校生の日本選手権だから11

目標達成のため1 良い経験になるから1 この大会を目標にしていたから2 去年も出たから1

トライアスロンが好きだから1 無回答10 家族の勧め1 コーチの勧め1

チームの先輩が出ていたから1 出れる大会が少ないから1 U19の大会に出られなかったから1

去年出れなかったから1 友だちが参加していたから1

《引率者》

(1) 学校側から交通費、宿泊棟の補助はありますか。

YES(1) NO(10)

(2) 普段の練習拠点はどこですか。

地元5 部活1 部活とクラブ1 クラブ4

(3) 普段の練習で困っていることはありますか。

なし3 学校の勉強が多忙である1 部活監督とうまくいっていない1

たくさんあって書ききれない1 常に困りながらできることをやっている1

土日メイン練習で平日はスイムのみ1 練習会場の確保1 地方選手の練習管理1

選手の実力の幅がありすぎて手が回らない(人手が足りない)1

(4) 学校側から何らかの支援はありますか。

なし8 費用負担1 クラブチーム活動への理解1

※教員：協力できる顧問を増やす 援助金を増やす

(5) クラブの担当コーチを学校長が認める「部活動指導員」として養成があった場合練習、試合の引率等は可能ですか。

対応可能な範囲内であれば可能1 可能8 できない2

(6) JTUに望むことはありますか。

なし4 現在のやり方では地方からの参加化できない1 Jr世代の育成2 無回答2

指導者の増員1 強い選手の育成方法1

## 【6】まとめ

選手権には、全国各地から参加があり特にトライアスロン人口の多い大都市部からの参加が多い。また、開催地が京都のため周辺県からの参加やトライアスロンクラブチームの引率がある場合などを除き参加者を全国くまなく募るまでには至っていない。

ただし、参加者については各都道府県連合ブロックの推薦者であるため競技レベルは十分高い。

学校での部活動に所属している選手は、トライアスロン部を除いてほぼ水泳部か陸上部に所属しているものが多く、部活動に所属していないがトライアスロンクラブチームに所属しているものもある。

選手権上位入賞者の多くは、部活動に所属しかつトライアスロンクラブにも所属し活動を両立している選手が多く、練習量、練習の質の高さが満たされているものと思います。

部活動の顧問との関係は、おおむね良好でありトライアスロン活動は理解されていると思われるが、選手権出場を知らない顧問もあり、後々信頼関係が損なわれないように対処してほしい。

練習拠点は、地元及び学校が多く地元でどのように練習を行っているか詳細に内容を調査する必要があると思います。

練習で困っていることは、無いが多く一見練習がうまくいっていきそうだが練習内容や仲間がいないなど専門的指導を受けられない選手や練習拠点が無いことが散見される。また、3年生の中に無回答が見られることから設問の方法を変えるなどして、今後の進路等を詳細に調査する必要があると思います。

高校生にとってこの大会に出場するということは、自分の立位置の確認や高校生の日本一を決める大会であるとの認識が固まりつつあるようです。回数を重ねるごとにこの傾向は強くなると思いますので大会を継続する必要はありますが普及という観点から保護者と選手自身の負担や開催地までの距離を考慮して考える必要があると思います。

引率者等のアンケート結果からは、部活との関係や金銭面についての悩みが多いが学校側から「外部部活動指導員」として要請されれば積極的に対応するという回答を得ています。

JTUは、この年代の進路や選手強化に積極的にかかわることでトライアスロン普及や発展につながるのではないかと思います。